



令和4年11月
浜松市立赤佐幼稚園

竹馬参観会

10月28日（金）に行われた竹馬披露会。年長組さんはお家の皆さんの前で、乗れるようになった立派な姿を披露しました。



ただ乗れるようになった姿だけでなく、線の上を歩く、巧技台に乗る、築山を昇り降りするなど、自分で見出した課題に取り組む姿も披露しました。多くの人前でドキドキした子もいたようですが、見てもらえたことで自信につながったと思います。

皆さんご存知の通り、赤佐幼稚園では年長組になると竹馬に取り組んでいます。これまで多くの子が乗れるようになり、保護者の方々に竹馬をつくっていただきました。既製品の竹馬だと鉄製で重いのですが、竹製のものは軽くて上達しやすいのがメリット。子供にとって扱いやすかったかと思います。つくっていただいたことに、改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

今回の赤佐っ子だよりでは、その竹馬について少し深掘りしてみたいと思います。

竹馬の教育的価値

竹馬が乗れるようになると、例えば以下のような効果が期待できます。

- ・体幹が鍛えられ、姿勢が良くなる。
- ・前後左右のバランス感覚が良くなる。
- ・普段とは違う体の使い方を獲得する。 など

遊びを通して、いろいろな体の部位、機能が鍛えられ、強化されます。

また、個人差はありますが、できるようになるまでおおよそ以下のような心の在り様、過程をたどり、成長していきます。

- ①「竹馬はきっとできない」という思い。難しそう。怖い。転んだら痛い。
- ②最初の一步ができるまでの、多くの失敗と葛藤。
- ③初めての成功（歩けた喜び）と楽しさ。
- ④練習とともに上達する手応えと喜び。できることで得られる意欲・自信。
- ⑤竹馬を自ら楽しもうとする展開。（自分で技を見出す）

みんなと一緒に、取り組む

1学期から少しずつ取り組んでいた子供たちですが、運動会が終わった後、竹馬の取組が盛んになります。これは、「目標に向かって精一杯頑張る」「力を十分に発揮しやり遂げる」など、運動会を通して育った力が竹馬にも注がれ、自分の力をもっと伸ばそうとするからです。

この力を注げるものとして、赤佐幼稚園では竹馬を取り上げています。すぐにはできないけど、頑張ればなんとかかなりそうなところがいいのです。そして、みんなが同じものに取り組む状況をつくることで、「友達の姿が刺激となり自分も頑張る」とか「できるようになった子が、頑張っている子に教えたり応援したりする」、「友達ができるようになったことを、一緒に喜び合う」といったかかわりや共感が生まれ、関係性を深めていけることにもつながります。



伝わり、憧れる

竹馬披露会当日は、年中組、年少組の子供たちも見ていました。お兄さん、お姉さんが頑張る姿や乗れるようになった姿は、強く印象に残ったようです。教師がこの時の様子を、以下のように振り返っていました。

竹馬披露会の中で、子供たちの「私もやってみたくなくなっちゃうね。」「あのむずかしいのはできなさそう。」という言葉や、「A子ちゃん、すぐ立ったね。私も転んだことあるけど、すごい!」という年長組の諦めない心にも気付く姿に、成長を感じた。

子供はよく見てるし、感じているんですね。こういう言葉が出てくる姿に「素敵だなあ」と思いました。

発表会終了後に、足つき竹馬に挑戦している子がいました。年長組のようにになりたい気持ちが、さっそく行動に表れていたようです。とても微笑ましい姿でした。



竹馬で培われた自信や、頑張る、目標に向かってやり抜くといった目に見えない力（非認知能力）が、また違ったところで発揮されることを願っています。